

高等教育研究センター

Research Center for Higher Education

Newsletter

No.028

2015.7

- 平成27年度学内版GP報告1
～医学部凡人教員の夢と現実～
- 活動報告
- スタッフから一言



信州大学 | 高等教育研究センター
SHINSHU UNIVERSITY

平成27年度学内版GP報告1

●●はじめに●●

高等教育研究センターでは、毎年、学内版GPを募集し、学生の学びを広げ深める取り組みを募集しています。今年度は、「『学生の主体的な学修を支える教育方法への転換』の具体的な手法であるアクティブ・ラーニング(能動的学修)を促す授業方法や教育方法の取組」と、「世界に目を向けたグローバル人材育成」の2つをテーマに募集を行い、10件が採択されました。学内の素晴らしい取組みを、このニュースレターにおいて、今後紹介していきます。

今回は第一弾として、医学部医学科の取組『大学のグローバル化に即応できる1グループ6人で学ぶヒト生物学』をご紹介します。



～ 医学部凡人教員の夢と現実 ～

医学部医学教育センター長 多田 剛



医学部医学科の必修「ヒト生物学」を双方向授業に

医学部医学科の新入生は将来医師になる人物として家族や友人から強く期待されている。彼らが周囲から病気について相談されることもあるだろう。医学生として早い時期から幅広い医学知識を持たせることは必要だ。開講当初からこの点を目的としていたかは不明だが、医学科では10年以上前から新入生に生物学の窓を通して医学全般を学ばせることができるSylvia Mader著『Human Biology』を教科書とする「ヒト生物学」を1年次の必修科目として行ってきた。

医学科に生物学の専任教員はいない。また英語教科書の講義は1人の教員が担当するには負担が大きいため、これまでは多数の教員が診療の傍らに講義を分担していた。その結果、講義に一貫性はなく、また、甘い総括的評価により1年次生は全員合格となっていたために、学生にも教員にも緊張感はなく、この講義は本来の目的を果たせなかった。

興味をそそるシラバスから



そこで、平成26年度から筆者ら医学教育センター教員2名が全講義を担当し、生物学のみならず英語や互いに教え合うことの重要性についても教えることにした。しかし、これは筆者らにとってもまったく未知の試みであったため、講義の運営方法については、事前に高等教育研究センターと綿密に相談した。

まず、シラバスを工夫した。高等教育研究センターから

は「シラバスは、それを読んだ学生がその講義に是非出席したいと思うように書くことが大切だ」と言われ、学生の好奇心をかき立てるように作った。ご興味ある方はご一読いただきたい。普段はめったに人を褒めない同僚の医学部教授数名から「あれ面白いね」とお褒めの言葉をいただいた。

努力しなければならなくなりました！



講義は1年次生120名が対象で、6名1単位のグループ学習とした。そのため事前に予習してこないと十分議論に参加できない。そこで、学生には事前に自分が分担して説明する範囲を決めさせ、誰かが予習して来ないとグループ全員が困るようにした。また遅刻をするとグループ学習の障害になるため、授業開始時に5分間のミニテストを行ない、その成績を平常点として期末毎の総括的評価に組み入れたところ、その効果は絶大で、みな試験に間に合うように駆け込んでくるので、大幅に遅刻してくる者は皆無となった。

グループ学習中は教員が巡回しその完了を見計らい、当日の学習が十分ならば解ける課題を個人またはグループ毎に与え、巡回中に気になった学生には学年全員の前で課題について自分の意見を発表させるなどした。また、講義中に手を挙げて質問できない学生のために、質問用紙を配布し、疑問点を書いて提出させ、講義後に、説明に使用したスライド原稿、課題の解答例と合わせて、学生からの疑問点についての解説をe-ALPSに掲示している。

総括的評価の配分は平常点40%、中間試験と期末試験を夫々30%とした。後期は5名が「不可」となった。こ

れまで「不可」の評価を出したことがない科目であり、また、学生や学生の意を受けた多数の教員から全員が進級できるように、とさまざまなご意見を頂いたが、その5名の学生には再試験は行わず、シラバス通りに留年してもらった。



喋れば寝るが、黙ると起きる

教員として医学生に教えたいことは山ほどある。かつての名物教授達が私にしてくれた素晴らしい講義の再現を夢見て、こちらが一生懸命しゃべればしゃべるほど、学生は

ぐっすり寝ている。そのため、この講義では私がどうしても伝えたいことをスライド数枚に限って解説するにとどめている。これは教員としてはとても苦痛で、このもやもや感は今も解決できないでいる。しかし、この講義ではグループ学習中に寝ている学生はいない。マンガやスマホで遊んでいる姿も見ることが無い。私は、今「この一瞬の解説」に命をかけている。

毎週講義のために教室に入ると、学生らがミニテストに向けて英語の教科書を必死で読んでいる姿が目飛び込む。それを見ると、この講義を始めてよかったという実感が湧き出て、つい嬉しくなる。よし、今日も頑張るぞと思う。



●●おわりに●●

*なお、この実践報告は、黒川由美・多田剛「医学科初年次教育に英語教科書『Human Biology』を用い、グループ学習を主体としたヒト生物学講義の試み」と題して、第47回日本医学教育学会（新潟大学主催・2015年7月24日～25日）において発表する予定です。上の内容に加え、学生アンケートの結果（「この授業をきっかけに教員の人柄を良くも悪くも知った（93.6%）」「授業中に嫌な思いをした（48.8%）」など）もあわせて分析し、学生が生物学のみならず、教員を人間として知り、自分の気持ちを処理して仲間と上手くやっていく術（汎用的スキル）も学んだことを報告します。

*「ヒト生物学」のシラバスは、高等教育研究センターのHPよりご覧いただけます。HP上「ニュースレター」のリンクをクリックしてご覧ください。

（編集・加藤善子）

活動報告

部局と高等教育研究センターとの懇談会を実施しました。

高等教育研究センターでは、教学関係の中期目標・中期計画の進捗状況の把握や計画遂行に向けた意見交換を主な目的として、各部局との懇談会を開催しました。今年度も右記のとおり5月中旬～6月中旬にかけて各部局を訪問しました。各部局長や教務、中期計画、評価等をご担当の先生方にご参加いただき、主に下記のテーマについて意見交換を行いました。

- *中期目標・計画について
- *初年次教育について
- *GPA制度を使った修学指導について
- *FDについて
- *各種調査のフィードバックについて
- *大学教育改革の動向について（アドミッションポリシー等）

今年度も昨年に引き続き懇談会形式の開催は今回の1回のみとし、今後は各事項についてご担当の先生方と直接連絡をとっていくこととしました。

★★ご対応いただいた各部局の皆様、ご協力ありがとうございました★★

平成27年度第1回懇談会実施日程

- 5月14日（木） 経済学部
- 5月21日（木） 全学教育機構
- 5月27日（水） 繊維学部
- 5月29日（金） 農学部
- 6月 1日（月） 教育学部
- 6月 4日（木） 人文学部
- 6月 8日（月） 工学部
- 6月15日（月） 医学部
- 6月18日（木） 理学部



スタッフからひとこと

半年間にわたる耐震改修工事が終わり、4月から新学期とともに一新にした研究室に引っ越ししました。個人部屋に戻って仕事が効率的になった反面、つつい部屋にこもってしまい、なんだか寂しい感じがします。振り返れば、この半年間は5人がお互いに気にしながら大部屋で仕事をしてきましたが、研究やら仕事やら生活やら、様々なことについて語り合うことができ、そこから得たヒントも多々ありました。せっかく築いた絆をぜひ深めていきたいと思えます。

（高等教育研究センター 李敏）

